

桜庭 梵子（さくらば・ぼんし）

1、プロフィール

「林苑」太田鴻村、「河」角川源義、「ひまわり」高井北杜、「木語」山田みづえらに師事。俳人協会青森県支部を立上げ、初代支部長に就任。ひまわり賞、木語賞などを受賞。県俳壇を牽引した第一人者。

<生没>

1926(大正 15)年 9 月 19 日 ~ 2003(平成 15)年 4 月 26 日

<代表作>

新刊書買ひ雪解野の風跨ぐ
子の知恵の巣箱といへど箱いろいろ
天瓜粉うてば戦の痕問はる
新涼や牛の咀嚼に遅速なし
腹抜かれ鮫鱈は海のくらみもつ

<青森との関わり>

俳人協会青森県支部長として 10 年間就任、以後顧問。県内各地区の選者を務めるなど八面六臂の活躍をした。青森県文化賞、青森県褒賞がその証である。

2、作家解説

沿川村(現板柳町)生まれ。本名、敏男。

1946(昭和 21)年、福島小蕾(臼田亜浪師系)に師事。1947(昭和 22)年、俳誌「林苑」太田鴻村に師事。1961(昭和 36)年、俳誌「河」角川源義に師事。1982(昭和 57)年、俳誌「ひまわり」高井北杜に師事。1987(昭和 62)年、俳誌「木語」山田みづえに師事。

1988(昭和 63)年、ひまわり賞。1996(平成 8)年、木語賞。1980(昭和 55)年、板柳町文化賞。1997(平成 9 年)、板柳町褒賞。平成 12 年、青森県文化賞。2003(平成 15)年、青森県褒賞。

役職としては、1960(昭和 35)年、青森県俳句懇話会委員。1985(昭和 60)年、俳人協会青森県支部初代支部長(10 年間)。1991(平成 3)年、青森県俳句懇話会副会長。

句集に、『花りんご』(林苑叢書 25 篇、昭和 60 年 6 月 10 日)、『櫻庭梵子集』(俳人協会現代俳句シリーズ 8 期 35 自註)、『雪折』(木語叢書 1 篇、平成 8 年 11 月 25 日)。

1972(昭和 47)年、青森県俳句懇話会第 1 位(竹内俊吉杯)となった。

3、資料紹介

○『雪折』

1996(平成 8)年 11 月 25 日

200mm×140mm

桜庭梵子の第 2 句集。昭和 60 年から平成 8 年 5 月まで所属俳誌に発表の 344 句の作品を自選収録したもの。前年に体調を崩し、後遺症のある状況下での発刊であった。「木語」の山田みづえの序文が掲載されている。